Ansibleを使ったネットワーク運用 ~ ENOG 45 Meeting ~

(株)NS・コンピュータサービス 江部 仁士

話の流れ

- ・構成管理ツールの選定
- ・Ansibleの概要
- Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ
- ・検証

構成管理ツールとは

• サーバの管理や設定を自動化してくれるツール



- 構成管理ツールで出来ること
 - アプリケーションのインストール
 - 設定の変更
 - サービスの起動・停止
 - パッチ適用 / アップデートの実行 …etc

なぜ構成管理ツールを使うのか?

- 構築面のメリット
 - 作業工数の削減
 - 複数の機器を一括で変更可能
 - 品質の保証
 - 複数の機器に対して同じ設定が投入されるため漏れがなくなる
 - ・ 誰が実施しても同じ結果(品質)となる
- 運用面のメリット
 - 人為的な操作ミスの削減
 - 操作内容をコード化するため、事前にレビューできる
 - 作業忘れや作業漏れをなくせる

有名な構成管理ツール

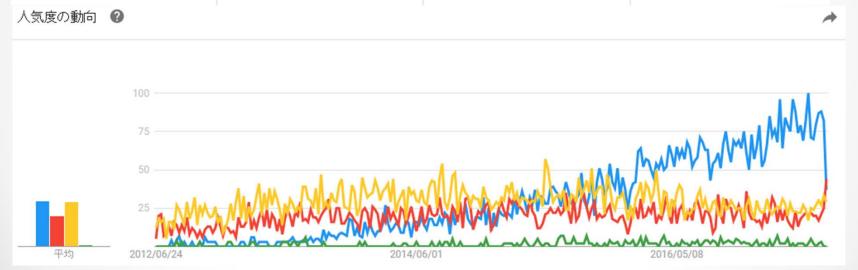
ツール名	使用言語	手順書の形式	エージェント
Ansible	Python	YAML	不要 (SSH)
Chef	Ruby	Ruby	必要
Puppet	Ruby	独自	必要
Itamae	Ruby	Ruby	不要 (SSH)

最近のトレンドはAnsible?

Google Trends

- install ansible 検索キーワード
 - すべての国,過去5...
- install chef
 - 検索キーワード すべての国,過去 5...
- install puppet 検索キーワード
 - すべての国,過去5...
- itamae

検索キーワード すべての国 .過去 5...



Ansibleについて

- Python ベースの構成管理ツール
- 2015年 RedHatがAnsibleを買収
- 最新バージョンは v2.3



Ansibleの特徴

- ・エージェントレス
 - 管理対象の機器に対してエージェントソフトのインストールが不要
 - SSHでターゲットを管理
- 手順書(PlayBook)はYAML形式の記述
 - 読みやすい、書きやすい、わかりやすい
- 冪等性を考慮したモジュール
 - 同じ処理を何回実行しても同じ結果になる
- 多数の製品に対応している
 - すぐに利用できるモジュールが充実している

Ansibleで操作可能なNWベンダー





















など

Ansibleラインナップ

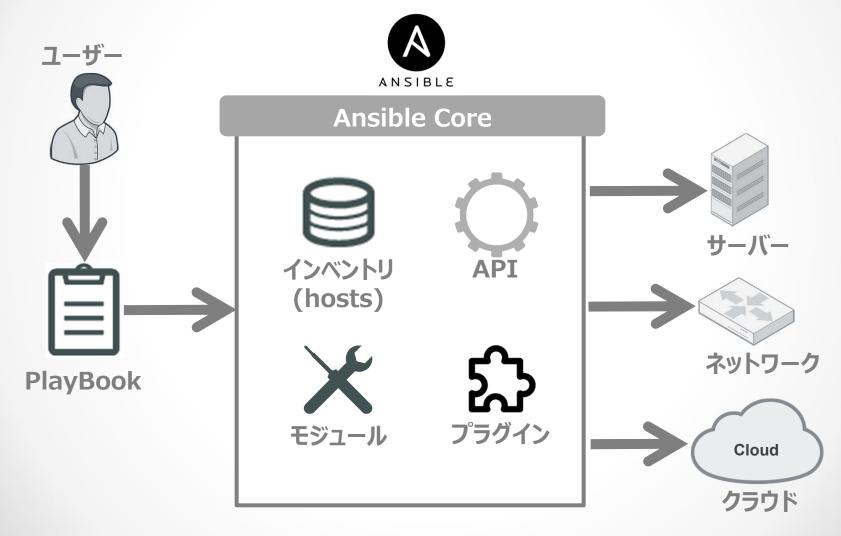
- Ansible Core
 - 自動化を提供する基盤
 - ・オープンソース



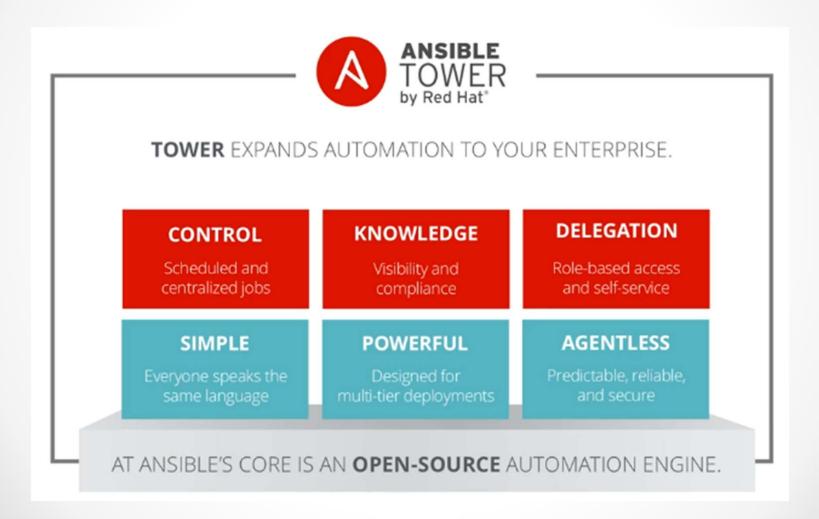
- Ansible Tower
 - Ansible Coreを管理するためのWeb UIツール
 - ダッシュボード (可視化)
 - ユーザーの権限管理
 - ジョブコントロール
 - 管理対象10ノードまでならフリーライセンスが提供されている



Ansible Core



Ansible Tower



Ansible Tower Web UI



Ansible Towerライセンス

• 価格

License	Standard	Premium
100ノード ライセンス	130万円/年	182万円/年

ライセンスの違いはサポート内容

- Standard サポート時間: 8 x 5 support
- Premium サポート時間: 24 x 7 support
- Premiumの方がサポート時の対応時間が優遇されている

• 機能面に違いはない

https://www.ansible.com/tower-editions



Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ



Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ

ターゲット側の設定(IPアドレス/SSH設定等)

Ansible インストール
インベントリファイル(hosts) / PlayBookの記述
PlayBookの実行
実行結果の確認

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Cisco IOSのSSH設定

Step1: ユーザー認証の設定 (config)# username "ユーザー名" password "パスワード"

Step2: line vtyにローカル認証の設定 (config)# line vty 0 4 (config-line)# login local

Step3: ホスト名、ドメイン名の設定(SSH暗号鍵生成のため) (config)# hostname "ホスト名" (config)# ip domain-name "ドメイン名"

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Cisco IOSのSSH設定

Step4: RSA暗号鍵の生成 (config)# crypto key generate rsa 鍵長は1024bitで設定してます。

Step5: SSHバージョンの設定 (config)# ip ssh version 2

Step6: SSH接続の許可設定 (config)# line vty 0 4 (config-line)# transport input ssh

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ

ターゲット側の設定(IPアドレス設定 / SSH設定)

Ansible インストール

インベントリファイル(hosts) / PlayBookの記述

PlayBookの実行

実行結果の確認

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ

Ansible インストール (CentOS7)

Python 2.6以降が必要。

Step1: EPELリポジトリを追加

yum install epel-release

Step2: Ansibleをインストール # yum install ansible

Step3: インストール後のバージョン確認 # ansible --version ansible 2.3.0.0 config file = /etc/ansible/ansible.cfg ~~

python version = $2.7.5 \sim \sim$

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ

ターケット側の設定(IPアドレス設定 / SSH設定)

Ansible インストール

インベントリファイル / PlayBookの記述



Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ インベントリファイルについて

- インベントリファイルとは
 - 管理対象のホストやホストグループを定義するファイル
 - 各種変数の定義も可能
- インベントリファイルの場所
 - ansible.cfg内でインベントリファイルを指定している Hostfile = [インベントリファイルのパス]
 - デフォルト: /etc/ansible/hosts
 - コマンド実行時に指定# ansible-playbook -i [インベントリファイルパス] [プレイブックパス]

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ インベントリファイルの記述

• インベントリファイルの記述

/etc/ansible/hosts

[webserver] …[]でホストグループを定義

web1.nscs.jp ····ホストグループに属させる個別ホストを定義

web2.nscs.jp

[webserver:vars] ···[ホストグループ名:vars] で変数の存在を定義

key1= value1 …"変数 = 値"の形式で定義

key2= value2

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ

インベントリファイルの記述例

数字連番の省略記法

[webserver]

web1.nscs.jp … web[1:3].nscs.jp に省略可

web2.nscs.jp

web3.nscs.jp

英字連番の省略記法

[webserver]

webA.nscs.jp … web[A:C].nscs.jpに省略可

webB.nscs.jp

webC.nscs.jp

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ PlayBookについて

- PlayBookとは
 - 手順書のようなもの
 - YAML形式のテキストファイル
- PlayBookの場所
 - PlayBookの実行時にパスを指定する# ansible-playbook [プレイブックパス]
- ・ベストプラクティス
 - http://docs.ansible.com/ansible/playbooks_best_practices.html

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ

PlayBookの記述

PlayBookの記述

/etc/ansible/test.yml

- hosts: "管理対象"

… ホスト / ホストグループ名 / all

tasks:

- name: "タスク名"

"モジュール":

- "属性"

…管理対象への指示内容

…操作で使用するモジュールを指定

…モジュールに渡す属性を指定

インデントは 半角スペースで!

<u>モジュールと属性を指定することで</u> 管理対象を特定の状態へ推移させる

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ インベントリファイル/PlayBookの記述

PlayBookのCisco IOS記述例

```
/etc/ansible/test.yml
hosts: cisco-router
tasks:
     - name: set hostname
     ios_config:
       authorize: yes
       username: "{{ ssh_user }}"
       password: "{{ ssh_pass }}"
       auth_pass: "{{ enable_pass }}"
       lines:
         - hostname nscs-r1
```

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Cisco IOS モジュール

- ios_command
 - 特権モードでコマンドを実行するためのモジュール
- ios_config
 - 設定するときに使用するモジュール
 - Version2.2で有能なオプションが多数追加されている
 - Backup: 変更前にrunning-configのバックアップが実行される
 - Defaults: 設定前に"show running-config all"が実行される
- ios_tamplate
 - テンプレートファイルを別に用意しておき、それを流し込むためのモジュール

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Cisco IOS モジュール

- ios_banner (v2.2)
 - バナーを設定するためのモジュール
- ios_vrf (v2.3)
 - VRF定義、管理するためのモジュール
- ios_facts (v2.2)
 - システム情報やインターフェース情報を収集するモジュール
- ios_system (v2.3)
 - Manage the system attributes on Cisco IOS devices

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Cisco IOS以外のモジュール

Cisco IOS-XR

- iosxr_command -Run commands on remote devices running Cisco IOS XR
- Iosxr_config Manage Cisco IOS XR configuration sections
- Iosxr_fact Collect facts from remote devices running IOS XR
- iosxr_system Manage the system attributes on Cisco IOS XR devices
- Iosxr_tamplate Manage Cisco IOS XR device configurations over SSH

Cisco ASA

- asa_acl Manage access-lists on a Cisco ASA
- asa_command Run arbitrary commands on Cisco ASA devices
- asa_config Manage configuration sections on Cisco ASA devices

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ

PlayBookの実行

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ PlayBookの実行

- 実行コマンド# ansible-playbook "PlayBookパス"
- オプション
 - --syntax-check
 - PlayBookの文法チェック
 - -C , --check
 - 変更は行わないが条件の確認などは実行
 - --start-at-task=START_AT
 - 指定のタスクから実行する

Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ Ansible 実行までの流れ

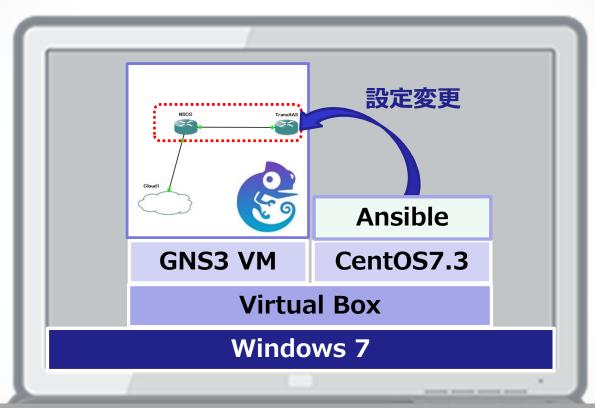


Ansible インストール ~ 設定 ~ 実行の流れ

実行結果の確認

ansible-playbook show_bgp_summary.yml -u cisco -k
SSH password:

検証環境の準備

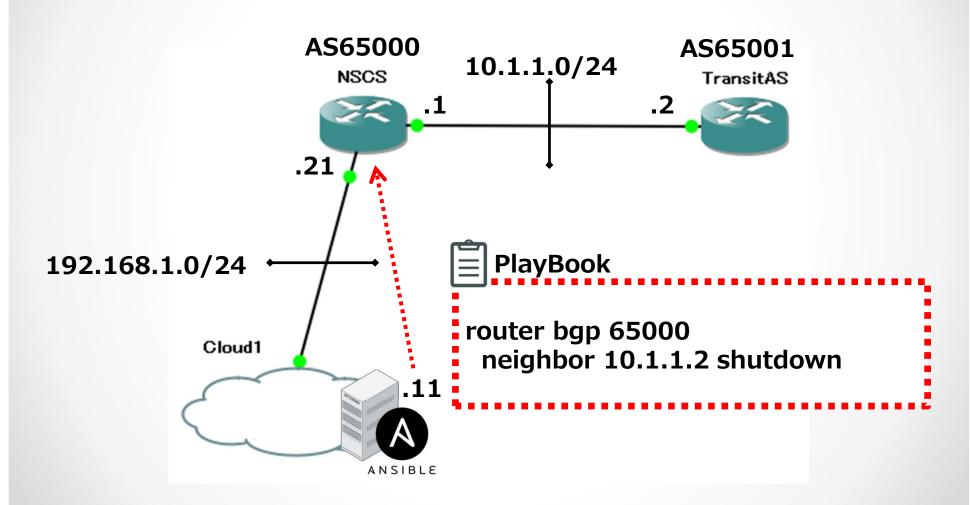


必要なものは1台のノートPCに集約

すべてのノードが同じネットワーク環境

Lenovo X230

検証環境の準備



インベントリ(hosts)の中身

cat hosts

[bgp]

192.168.1.21

ルーターのIPアドレス

[bgp:vars]
ssh_user=cisco
ssh_pass=cisco0
ena_pass=cisco1

SSH認証情報の定義

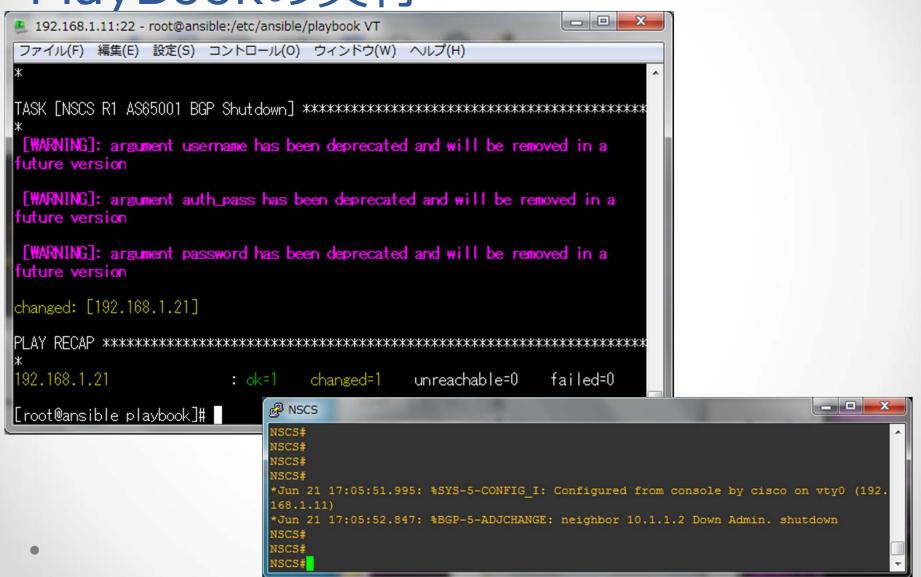
PlayBookの中身

```
# cat bgp_AS65001_shut.yml
- hosts: bgp
 gather_facts: no
                                    ターゲット情報の収集を無効化
 connection: local
 tasks:
 - name: NSCS R1 AS65001 BGP Shutdown
  ios_config:
    authorize: yes
    username: "{{ ssh_user }}"
    password: "{{ ssh_pass }}"
    auth_pass: "{{ ena_pass }}"
    lines: neighbor 10.1.1.2 shutdown 実行したいコマンド
    parents: router bgp 65000
                                    コマンドを実行する階層を指定
```

PlayBookの実行前の状態

```
NSCS#show ip bgp summary
BGP router identifier 192.168.1.21, local AS number 65000
BGP table version is 4, main routing table version 4
3 network entries using 351 bytes of memory
3 path entries using 156 bytes of memory
3/2 BGP path/bestpath attribute entries using 372 bytes of memory
1 BGP AS-PATH entries using 24 bytes of memory
0 BGP route-map cache entries using 0 bytes of memory
O BGP filter-list cache entries using O bytes of memory
BGP using 903 total bytes of memory
BGP activity 3/0 prefixes, 3/0 paths, scan interval 60 secs
Neighbor
           V AS MsgRcvd MsgSent TblVer InQ OutQ Up/Down State/PfxRcd
10.1.1.2 4 65001 5 5 4 0 0 00:02:00
NSCS#
```

PlayBookの実行



PlayBookの実行結果確認

```
0
₽ NSCS
NSCS#
*Jun 21 17:05:51.995: %SYS-5-CONFIG I: Configured from console by cisco on vty0 (192.
168.1.11)
*Jun 21 17:05:52.847: %BGP-5-ADJCHANGE: neighbor 10.1.1.2 Down Admin. shutdown
NSCS#
NSCS#
NSCS#
NSCS#show ip bgp summ
NSCS#show ip bgp summary
BGP router identifier 192.168.1.21, local AS number 65000
BGP table version is 14, main routing table version 14
1 network entries using 117 bytes of memory
1 path entries using 52 bytes of memory
2/1 BGP path/bestpath attribute entries using 248 bytes of memory
0 BGP route-map cache entries using 0 bytes of memory
0 BGP filter-list cache entries using 0 bytes of memory
BGP using 417 total bytes of memory
BGP activity 7/6 prefixes, 7/6 paths, scan interval 60 secs
Neighbor V AS MsgRcvd MsgSent TblVer InQ OutQ Up/Down State/PfxRcd
10.1.1.2
              4 65001
                            29 29
                                                       0 00:01:31 Idle (Admin)
NSCS#
NSCS#
```

まとめ

- 簡単に導入することができるのは間違いない!
- Ansible Coreだけで自動化を楽しめる!
- ドキュメントがしっかり整備されている
 - https://docs.ansible.com/
- 実運用環境への投入はテストとレビューを怠るな!
 - 検証時にBGPネイバーを飛ばしている。。。
 - ピアをアップさせる際に"no neighbor 10.1.1.2" を実行していた。。。

Fin

ご清聴いただきありがとうございました